

# すざいっしょ！ひだか ~知ってる?! ひだかの軽種馬~

## 1 日高の軽種馬生産の歴史

日高で軽種馬生産が本格的に始まったのは、1960年代半ば頃から。70年代に入ると、米の減反政策により、米から馬に転換する飼養農家戸数が増加しました。80年代後半にオグリキャップが登場し、競馬人気は絶頂期を迎えました。この時期の日高の生産頭数は1万頭を超え、飼養農家戸数も約1,800戸までになりました。

しかし、バブル崩壊とともに、日高の生産頭数、飼養農家戸数は減少に向かいました…。

## 2 現在の生産状況

日高管内の軽種馬繁殖牝馬飼養戸数は646戸、繁殖牝馬飼養頭数は8,266頭、生産頭数は6,146頭と全国シェアの約80%を占めています。

	全国	北海道	日高管内	全国シェア	北海道シェア
	①	②	③	③÷①	③÷②
飼養戸数	761戸	690戸	642戸	84.4%	93.0%
飼養頭数 (繁殖牝馬)	10,650頭	10,379頭	8,364頭	78.5%	80.6%
生産頭数	7,798頭	7,630頭	6,239頭	80.0%	81.8%

(2023 軽種馬統計より)

## 3 軽種馬の生産サイクル (軽種馬統計より)

生産された産駒は、生産牧場、育成牧場を経て、2歳で競走馬に登録され、トレーニングセンターに入厩後、競走馬デビューを迎えます。

(前年)	当歳	1歳	2歳	3歳
春	春夏秋冬	春夏秋冬	春夏秋冬	春夏秋冬

